

【基礎情報(事務局用)】

設立年	2021年	代表者	竹内 明、景井 充
実習担当 責任者	氏名： 竹内 明、 景井 充 役職： 代表者	連絡先	電 話： 090-3625-8663 メー ル： takeuchi_a@takeuchi-kyoto.jp
実習先 所在地	京都市右京区京北地区		
実習先 部署	ヤマケン(山と木文化の研究会)、特定非営利活動法人ふるさと京北鉾杉塾 嵯峨・木のこゝろ『風(ふう)』		
職員数	正職員： 人(有給/無給) / アルバイト： 人(有給/無給) インターン： 人(有給/無給) / ボランティア： 人(有給/無給) その他： 人(有給/無給)		
設立趣旨 あるいは 活動理念	古民家の再生活動(関係諸団体との協働を通じて) 京北地域の再生・振興に関わる諸活動		
主な 活動内容	茅葺プロジェクト、茅刈り、山林の間伐材伐採から現場製材一環体験、 古民家再生、京北地域の古民家情報収集		
ボランティア 受入実績	2020年：産業社会学部「企画研究」で開講。学生6名を受け入れ、京北にて2泊3日 のWSを実施。2021年：「シチズンシップ・スタディーズ」で開講。学生15名を受け入 れ、京北にて2泊3日のWSを実施。		

【活動にあたってのリスクの想定】

	予想されるリスク	予防策・対応方法
1	コロナ禍	体験学習前2週間の体温測定・報告、当日の検温・手指消毒・マスクの着用、「三密」を避ける
2	けがの防止(萱刈り、間伐材伐採・製材)	充実した事前のレクチャー開催
3		

【教育プログラムでの過去のトラブルと実際にとった対応】

	過去のトラブル事例	実際にとった対応
1	特になし	
2		
3		

受入団体名：京北WSプロジェクト

プロジェクト名：京北WSプロジェクト

募集人数

30名

<活動期間：令和4年11月18日(金)～20日(日) 活動日数：3日程度>

<活動日or 活動パターン>

週1日程度・定例、月1～2回・不定期 その他

<主な活動場所>

京都市右京区京北大野、弓削地区

<活動の流れ>

日時	活動内容
18日	準備 茅葺民家葺替え、里山・民家を建築の視点からレクチャー
19日	1.古民家再生の為の準備、片付、清掃活動 2.茅刈り 3.山林の間伐、製材 山村集落の生活者によるレクチャー、問題討論
20日	1.茅刈り 2.京北地区民家集落探訪、古民家見学

<キャンパスからの交通手段>

※宿泊施設により異なる
(決定次第通知)

<活動に必要な費用>
宿泊費・食費

<参加の姿勢>

協働作業に積極的に参加できること

<コミュニケーションの手段>

電子メール Facebook
 LINE 電話
 その他()

<活動のテーマと主な内容>

京北地域振興（空家対策、建物維持管理）のために茅葺古民家を再生する

古民家の維持・再生活動や林産のプロセスに関わることを通じて、里山地域である京北地域の生活文化を学び、今後の里山エリアの暮らしのあり方について学ぶ。具体的には、建築文化の専門家が取り組む活動に参加し、屋根に用いる茅を刈る作業や山林の保守活動である間伐材の活用のサポートを行う。また、里山の生活を体感するために里山エリアに関わる課題や展望についてレクチャーを受け、実際に古民家を訪ねて里山の暮らしぶりを学ぶ。

去年は建築家及び里山生活者等によるレクチャーと茅刈り活動風景、民家探訪等

<活動する現場で学生が求められる背景(理由)>

古民家の再生・保全活動は、もともと村の「結」などと呼ばれていた共同活動として行われてきたものであるが、現在は人口減少・高齢化や産業構造の変化、それに伴う地域社会自体の変化により、そうした村の共同活動はほぼ行われなくなっている。若い世代の学生たちがそうした維持・保全活動に参加してくれることには、里山の地域社会の維持・保全にとって、大きな意義がある。

<学生が期待できる学び>

茅葺古民家やそこでの暮らしを典型として、里山地域の生活文化や林産業の現況を知ることにより、郊外エリアに位置する里山の文化や暮らしについて理解を深めることができる。またそれによって、都市生活を相対化して捉え、自身の生活のありようや今後について考える視点を獲得できる。